

## LPガスCP速報(2023年8月積)

### 1. 8積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **470**  $\text{ドル}$  (前月比+70  $\text{ドル}$ )

ブタン **460**  $\text{ドル}$  (前月比+85  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、不需要期入りで需要が低迷するなか、原油市況が急騰し、石化需要にも支えられ、市況は反騰となった。スポット販売は、中国石化、PDH向け需要が中心、台湾、インド、ベトナム等からも入札が実施された。中国のPDHはマージン好転で稼働率が回復(5月70%台)、新規プラントも立ち上がりプロパン市況を下支えした。OPECプラス減産でスポット販売も限定的になるとの観測もあり、極東CFR市況は、フレート市況の高騰もあり、第3週にはプロパン550  $\text{ドル}$ 、ブタン540  $\text{ドル}$ まで続騰、第4週には4月以来の高値を付けた原油市況に連れ高となった。

米国市場をみると、輸出は引き続き好調(グラフ③)も需要は不需要期入りで低迷、供給は潤沢で、全米プロパン在庫は増加が続き前年同期比4割増し、5年平均レンジを上抜けている。モンベルビュープロパンスポット価格は、原油市況の急騰と中東市場の上げで反騰、上旬は300  $\text{ドル/トン}$ を下回っていたが、中旬以降は上げが続き、第4週には366  $\text{ドル}$ まで上げている。月間平均は前月比28  $\text{ドル}$ の反騰で322  $\text{ドル/トン}$ どころが見込まれている(グラフ①参照)。

フレート市況は軟化したものの高値圏で推移となった。産ガス国系トレーダーのVLGCチャーターによる船舶需給タイト化は一服、スポット販売減少で傭船可能な船舶が増加し、船舶需給に余裕も。米国市場は堅調な輸出で、米国～日本の市況は170～180  $\text{ドル}$ で推移した。パナマ運河の滞船日数は7月に入ると1～2週間に増加、干ばつによる喫水制限もあり、滞船を嫌って喜望峰経由の傭船の可能性もあり、船舶需給が引き締まることも要注意。

ナフサ市況は軟化、月間平均は前月比44  $\text{ドル}$ の反騰で584  $\text{ドル}$ どころ。原油市況の反騰と石化需要回復期待で上げている。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比58  $\text{ドル}$ 反騰の501  $\text{ドル}$ どころとなった。一方、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同62  $\text{ドル}$ 続騰の775  $\text{ドル}$ どころ、ガスオイルとC重油との格差は274  $\text{ドル}$ に拡大した。

8月CPは前年同月比プロパン、ブタン200  $\text{ドル}$ のそれぞれ下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン5ポイント、ブタン9ポイント上昇、前年同月比ではプロパン、ブタン6ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	115	115	110	100	110
CP先物指標：P	440	455	450	470	454
CP先物指標：B	435	445	430	455	441

#### ② 原油市況等

7月の原油市況は大幅に上昇、5週連続の上げとなり第4週末には4月18日以来の高値で80  $\text{ドル}$ を突破した。OPECプラスの協調減産、サウジ、ロシアの供給削減と中国の景気刺激策への期待から世界的な需給逼迫懸念が市況を押し上げた。米金融市場は、堅調な経済指標、インフレ鈍化、好調な企業決算を受けて株価が上昇、リセッション懸念は後退しソフトランディングの可能性が高まりリスクオン状態となった。原油先物市場もテクニカルな壁となっていた200日移動平均を突破し、RSI(相対力指数)でも買われ過ぎを警戒する一方、需給タイトを示すバックワーデーション(期先安)に戻っており、ウクライナ戦争緊迫化の地政学リスクも相まって、更に上値を試す動きとなるか注目されている。

○7月積みアラビアン・ライト(7月1～28日までの想定)は83.50  $\text{ドル}$ (前月比+6.06  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン684.61  $\text{ドル/トン}$  ブタン675.22  $\text{ドル/トン}$

AL比 プロパン68.65% ブタン68.13%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

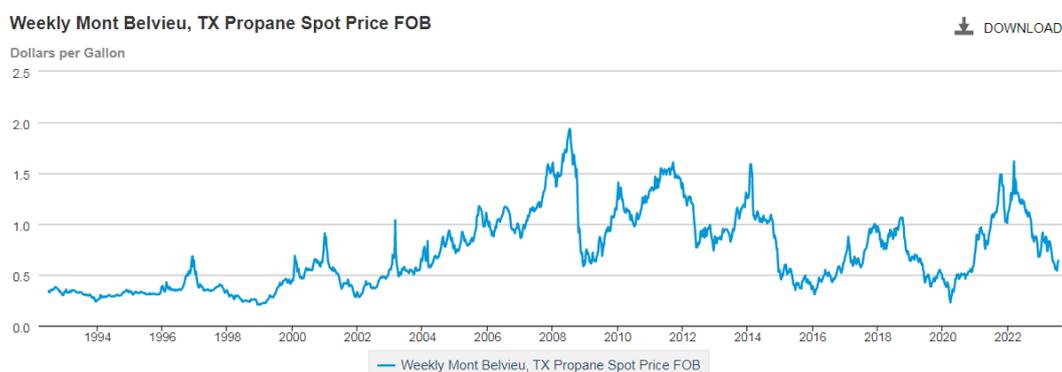
## 2. 2023年8月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
7月月間	142.30	72,500	69,900	+2,200	+1,400

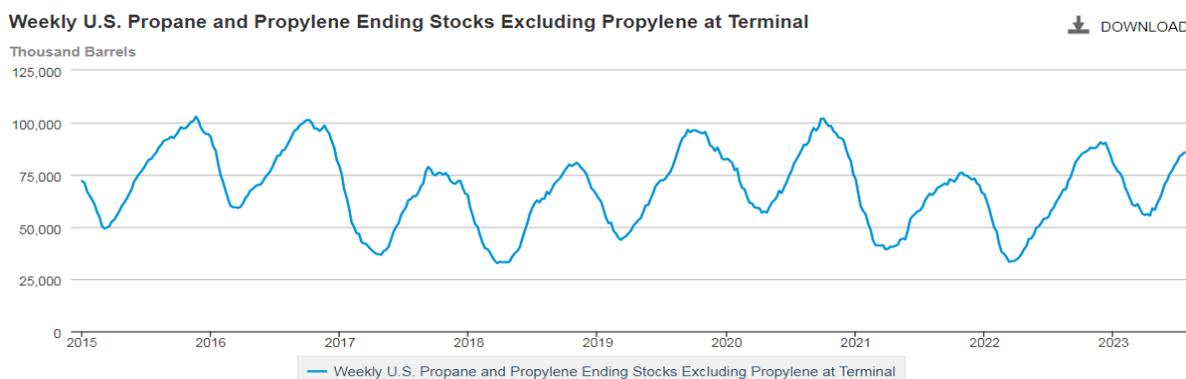
\* TTS平均等について、各社の適用為替レートが4月仕切改定から月間平均に統一された。上記は7月1～31日までの平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成の比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれるが各社で異なる。

なお、上記MBは7月23日までの価格を基にEINで試算（322ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米国プロパンスポット価格推移

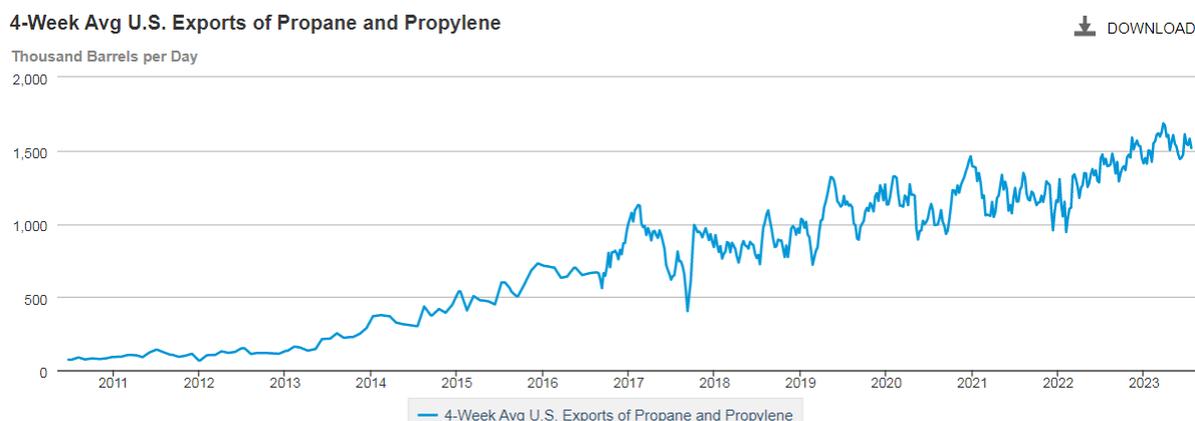


### ②米プロパン在庫推移



eia Data source: U.S. Energy Information Administration

### ③米プロパン輸出量推移



eia Data source: U.S. Energy Information Administration